

# 山弓連

平成14年度  
第5号  
15・1・10  
発行

## YBS杯弓道大会

平成14年11月23日(日)

小瀬武道館弓道場



恒例のYBS杯弓道大会が、11月23日に弓道愛好家の面々が我こそはと意気込んで試合に挑み、安藤会長の「各自、今回こそは予選通過！今年こそは何射迄の中

を伸ばせるか？」と目標を設定して試合に臨んでいることでしょう」の挨拶があり、矢渡しの後、緊張の予選開始となりました。

### 試合結果

女子の部・申し込み24名 参加20名 予選通過7名

- 1位 大和田幸子(櫛形町) 2位 佐野裕子(八代町)  
3位 梶本かね代(増穂町)

男子の部・申し込み71名 参加84名 予選通過35名

- 1位 細野晃史(甲府市) 2位 古屋清紀(山梨市)  
3位 中込康之(白根町) 4位 下田大介(山梨市)  
5位 渡島悦男(御坂町)

称号の部・申し込み26名 参加16名 予選通過12名

- 1位 標 興次(春日居町) 2位 鈴木茂雄(大月市)  
3位 菱山忠夫(御坂町)

男子の部 息詰まる!!熱戦の軌跡 12射皆中

1 2 3 4 1 2 3 4 5 6 7 8

1位 細野晃史	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2位 古屋清紀	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	×
3位 中込康之	×	×	○	○	○	○	○	○	×			
4位 下田大介	×	×	○	○	○	○	○	×				
5位 渡島悦男	○	○	○	○	○	○	×					

## 射礼講習会

平成14年11月17日(日)

例年にない寒さの中、初めての指導部での企画として、中沢先生、秋山先生のご指導で射礼講習会が小瀬武道館で開催されました。礼記射義、射法訓を全員で読み上げ、厳肅の空気の中で講習会は始まりました。

中沢先生の巻簾射礼は初めて見せていただき、非常に参考になりました。河西指導部長の矢渡しの後、先ず全員が一手、審査方式で射し、両先生からの注意を受けました。特に寒さのためか、硬くなって体全体で引いていない、手先で引いている

人が多い、大三で妻手に力が入っている、身体の裏筋で引くこと(足の裏、背中)、等の指摘を受けました。

矢、弓の処理の仕方、弓の渡し方、等々の指導を受けた後、



全員が二射場に分かれ、介添えの講習に移り、第一、第二介添えの先生からの細かい注意点の指摘され、受講生も適宜の質問をし、第二介添

えは塚の前で指導を受け、何度もやり直しをし、第一、第二介添えの連携、矢の受け渡し等の指導され、午後は、2射場に分け、矢渡しを実際に行い、一組終わる毎、先生の細部に渡っての注意指導を受けました。大半の受講生が、介添えの指導を受け、間違っ、覚えるものです、といわれ、緊張しながら講習を受けました。礼の仕方、手の位置、第一、二介添えの矢の受け渡し、射手に矢の渡し方・等々、を確認しながら、大変寒い中、震えながらの講習会でしたが、射礼の概要を会得出来たと思っています。

繰り返し稽古し、恥ずかしくない介添えを心得たいと思っ講習会を終了しました。(新藤)

## 本年度2回、3回 審査報告 審査部

種別	平成14年11月10日		平成14年11月10日	
	審査人数	合格人数	審査人数	合格人数
査定2級		5		3
査定1級	35	25	45	45
初段	39	27	69	54
二段	32	19	29	16
三段	10	1	20	3
四段	7	2	14	1
合計	123	⑤ 79	187	⑦ 122

○内の数字は欠席数

昇段審査は弓道修練しての習得された自分の成果を目安として確認するものであり、目標の全ては真善美である。その時の採点は自分に与えられた結果であり明日からの目標ではないだろうか。今回の学科問題はすべてが、お互いに修練するための物であるので、あらかじめその問題を公表させていただいた、にもかかわらず4名近い人が不合格であった、以前にも術科が満点でありながら学科が不合格で認定されなかったケースがあったが、今回もそのような人が見受けられた。それ以外の喜ばしいケースは前回2級認定で再度今回査定に挑戦し、初段を取得した人がいた、多くの人は前回1級を取得して今回初段に挑戦した仲間がいたが結果取得することができず、いまだに1級止まりとなった、又次回に挑戦しなければならない、努力する一

歩の価値観が何処にあるかを感じさせられた審査会であった。これから4段に挑戦する人は中央に向けての試金石であるので、弓も矢も竹弓竹矢の用具を使用することが望ましいと思います。次回の審査は平成15年2月23日です、学科については課題abc共no1の問題を出題します。

## 第17回山梨県中学校新人弓道大会

1月4日に新人大会が行われました。集中力や技術的には今一歩でしたが、一生懸命弓を引く姿を見ることができました。的に当てる技術も課題ではありますが、体配をはじめとして挨拶や準備など、行動での甘さが見られました。本年度、小中体連主催の最期の大会でしたが、来春に向けて各学校、各個人努力を期待するという言葉で幕を閉じました。

平成14年11月4日(月曜日)

小瀬スポーツ公園武道館弓道場

団体戦は36射(12射/人)、個人戦は12射で実施しました。

男子団体

- ①19中 増穂中Bチーム 荒川雄・望月勇希・依田亮二
- ②15中 増穂中Cチーム 志村友哉・内藤文哉・秋山 健
- ③13中 檜形中Cチーム 田中拓己・木村大樹・澤田侑也

男子個人

- 第1位 8中 増穂中 依田 亮二
- 第2位 6中 増穂中 秋山 健
- 第3位 6中 檜形中 田中 拓己

(第2・3位は同中競射による)

女子団体

- ①15中 南中Bチーム 海野美穂子・林 優子・志村 直子
- ②13中 檜形中Cチーム 古矢幸子・有泉沙苗・山添 瑛理
- ③11中 下吉田中Cチーム 柏木はる香・宮下真利奈

女子個人

・角田みゆき

- 第1位 6中 檜形中 古矢 幸子
- 第2位 6中 南中 海野美穂子(第1・2位は同中競射による)
- 第3位 5中 下吉田中 柏木はる香(第3位は同中競射による)

小中体連弓道専門部 専門委員長

## 山弓連納射会

日時:平成14年12月15日 10:00

場所:小瀬武道館 弓道場

山梨県弓同連盟の納射会が一年を締めくくるにふさわしく、特に今年昇格された先生方の祝射はおごそかの中に執り行われ、参加した弓士の今後の励みになるものと思われました。

平成14年中に昇段昇格された方々

錬士号:中村秀子(3月) 櫻井健三(6月)

教士号:宮崎克行(11月)

八段:上條 皎(5月)

表彰・国体入賞の披露が行われました

体育功労者賞(9月):

有賀武雄(山弓連推薦) 不動田光熙(上野原体協推薦)

国体入賞披露

成年男子近的7位・監督:深澤 勇、

選手:荒井壽一、細野晃史、中込 実

成年女子遠的7位・監督:小林弘子、

選手:大久保涼子、深澤琴歌、保坂亜紀

◎納射会・競射結果 申込者71名 参加者49名

優勝・綿奈部博史5/6・準優勝・深澤 勇 4/6

3位・高尾昌伴 4/6

## 「連載」スポーツ心理学 教士7段 佐野 辰巳

スポーツの心理的効果はジョギングのように持久力的運動が、さわやかな快感を生み出し、そこに心の浄化作用が生まれてくる、そして運動を適度に行っていると気分がよくなり、何事においても意欲が湧いてくるので精神的な能力が活発に働き、運動の量や質がコントロールされてくる、又一つの自信が全てを現すように積極的に自主性などが自然に強化されることになる。動機がもたらす競技心理の諸問題は人が生み出す欲求は生理的な欲求であり、心の中に何か不足している物があれば、それに関する欲求が生まれそれを得ようとする、その行動をおこしたものを動機という、その動機の目標に向かって進むわけだが、それ前に今は、次は、等どうするか目標がないと長続きはしない、その競技の中で人それぞれによってあがりが生じてくる、それは誰でもあるが大きい小さいかで自信につながり試合では敵が仕掛ける前に仕掛けないと勝負に負ける。どんなに仕掛けてもスランプは内面的なもの外面的なものにわけられるがいずれにしてもお互いの心の問題が主な条件である。

問題となるあがりには拍数の変化によりその強度が生まれる、それは心理的限界と生理的限界の二つがあげられる、その特徴として良く緊張によるものとして5つ上げることができる、①自律性②心理性③技能性④精神性⑤人間性などが上げられる。なぜあがるかについては①内向性②達成意欲③不安定な傾向などが上げられる。選手一人一人がそれを克服するには①何かを理解する②状況を把握する③自己をコントロールする④決意の実行である、その中で不安の対応策は①身体的なものを正常にする②技術をあげることなどが上げられる中で精神にも、物理的にも正確な計画を立てて一つ一つ克服していくことである、今回は「スポーツ科学」です。

## 新しい年を迎えて

初射会・平成15年1月5日(日) 小瀬弓道場  
大変寒い初射会でした、安藤会長「皆さんにとってよい年になるように!!」の力強い挨拶の後、寒さにもめげず、新しい年にふさわしい力強いものを感じた初射会でした。

申込者数・66名・参加者数42名

競射成績・祝射含めて6射(○内数字の中数)

1位・細野晃史⑥ 2位・渡辺元樹⑤ 3位・小澤重平⑤

4位・高部保延④ 5位・芦沢茂幸④

新しい年も「山弓連」をどうぞよろしくお願ひいたします。

新藤